

聖書のすすめ



佐藤 洋晴 宗教主任

「わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。これは、神の豊かな恵みによるものです。」

新約聖書 エフェソの信徒への手紙 1章7節

昨年から、気候の良い秋の期間限定だが、魚釣りをしている。きっかけは、息子が通信教育講座のポイントをためて、釣竿セットを手に入れたことだ。私は釣りとはあまり縁がなく、今住んでいる家の近くで釣りをしている人をよく見かけたが、やってみようとは思わなかった。息子は竿を手に入れると早速その場所に行ったが、魚が釣れる気配はなかった。竿の扱いにも慣れたのに釣れないのは、あまりにもかわいそうなので、思い切って釣道具店に行き、簡単に釣れそうなハゼの餌釣りに挑戦する事にした。「イソメ」という生きた餌を扱うのは、私も初めてだった。虫が苦手ではないが、クネクネと動くミミズのようなイソメは気持ちのいいものではなかった。元気なイソメは、指に噛み付くので、頭にはさみで切り込みを入れる。すると、イソメから血と体液があふれでる。痛くて（たぶん）暴れまわるイソメに針を通す。その哀れな状態のイソメが魚にとって魅力的らしく、魚が食いついてくる。糸がついた針が仕込まれている事も知らずに。こうして、魚釣り素人の親子は、念願の魚を釣る事が出来た。その楽しさは、息子が学校のクラブ活動で魚釣りをする「海洋研究クラブ」に入った事実から想像して欲しい。その楽しさの一方で、イソメの哀れな姿と針に掛かって暴れるハゼのつぶらな瞳を見ると、何て野蛮で残酷な、という気持ちを抱く。そのようなイソメや魚を見ていると、イエスキリストの十字架の出来事が頭をよぎる。イソメや魚を哀れな状態にしたのも人間だが、主イエスを直接十字架につけたのも人間である。キリスト教会では、その出来事を忘れる事なく、聖餐式という儀式を定期的に行って確認している。その儀式で用いるパンとぶどう酒は、十字架に掛けられた主イエスの体とそこで流された血を象徴している、と聖書科の授業で説明すると、多くの生徒が、何て残酷で、気持ち悪いという反応を示す。しかし、十字架の主イエスの血は、無意味なものではなく、その残酷さを越えて、私たちの罪の赦しの象徴であり、その独り子を与えてくださったほどに私たちを愛してくださっている神様の豊かな恵みの象徴なのである。魚を釣りながらそんな事を考えた。